



刊行のごあいさつ

東日本大震災以降、国立環境研究所（NIES）は災害環境研究に精力的に取り組んでまいりましたが、来年度はじめには福島支部を創設し、さらなる研究展開を図ります。これを機会に、より多くの方々にNIESの活動を知って頂きたいと思い、「NIESレターふくしま」の刊行に至りました。隔月で様々な活動報告やわかりやすい研究紹介をしていきたいと考えています。ご一読・ご支援賜れば幸いです。（企画部長・福島支部準備室長：樽林 茂夫）

最近の動向

- 4月** 福島大学環境放射能研究所（IER）と連携協定を締結
福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）と「環境創造センターにおける連携協力に関する基本協定」を締結

- 5月** 中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）と連携・協力に関する協定を締結
- 6月** [国立環境研究所ニュース34巻2号](#)において特集記事を掲載
[国立環境研究所公開シンポジウム2015](#)において講演（主任研究員：今泉圭隆）
(6/19東京、6/26大阪)

- 7月** 市民参加型イベント「バードデータチャレンジ in 福島 2015」を開催
第4回環境放射能除染研究発表会において「NIES-JESCOジョイントセッション」を開催
[環境放射能対策・廃棄物処理国際展（RADIEX）フォーラム](#)において講演
(プログラムリーダー：大迫政浩)
国立環境研究所夏の大大公開においてパネル展示と体験型イベント「災害環境研究“最前線”～しらべる・つくる・そなえる～」を実施
フランス放射線防護原子力安全研究所（IRSN）との第2回情報交換会を開催
災害環境研究セミナー「福島における森林と農地の今・これから」を開催
(講師：金子真司氏（森林総合研究所）・溝口勝氏（東京大学）)



公開シンポジウム2015



「バードデータチャレンジ in 福島 2015」



夏の大大公開（体験コーナー）



災害環境研究セミナー

被災地の環境回復と創生のための災害環境研究Q&A2015

国立環境研究所は、東日本大震災の直後から、「災害環境研究」を続けてきました。最新の研究成果について、一般の方々にも分かりやすいようQ&A形式で構成した「被災地の環境回復と創生のための災害環境研究Q&A2015」を発刊しました。

<http://www.nies.go.jp/shinsai/Q&A.html>



災害環境研究と福島支部

災害環境研究って何ですか？

東日本大震災発生後、国立環境研究所は国や地方自治体と連携・協力して、様々な被災地支援の研究を行ってきました。災害環境研究は、下図に示す3つの研究プログラムを軸として、被災地の環境回復・復興、将来の災害に備えた環境と安全を守る社会づくり、に貢献することを目的とした研究活動です。

環境回復研究

被災地の環境回復に貢献します

① 廃棄物の処理処分技術・システム

放射性物質に汚染された廃棄物や土壌を処理する技術を開発したり、処理・処分施設を長期的に管理する方法などを研究します。



② 環境動態、被ばく、生物・生態系

森や川などでの放射性物質の汚染実態や動きを把握して、将来の予測をします。また、人への被ばく量の推計や、生物・生態系に対する影響を研究します。

環境創生研究

被災地の新しいまちづくりに貢献します



被災地が復興し、新しい環境を創るまでの流れを支援する方法を研究します。また自治体と協力しながら、地域の実態に合わせた環境都市づくりを支援します。

災害環境マネジメント研究

将来の災害に備えます

災害と環境に関する研究で得られた知識をまとめ、災害が環境にどう影響するか、災害に対応できる社会づくりをどのように進めるか、などの研究を行います。



被災地の環境回復・復興

将来の災害に備えた環境と安全を守る社会づくり

福島支部ってなんですか？

国立環境研究所初となる支部で、福島県が三春町に建設中の環境創造センター内に創設されます。平成28年度から80名ほどの職員が福島支部に入所し、災害環境研究をさらに発展させていきます。

環境創造センター完成イメージ

研究棟
(H28年度)

福島支部はここに
入ります！

本館
(H27年度)

交流棟
(H28年度)



日本原子力研究開発機構



福島県



国立環境研究所

福島県や日本原子力研究開発機構（JAEA）とともに、被災地の復興に向けた様々な研究を行っていく予定です。